

地域防災拠点等でのドラム缶等による軽油・灯油の貯蔵・取扱い

仮貯蔵・仮取扱い実施計画書【例4】

1 目的

震災等により地域防災拠点等において非常用発電機及び暖房用燃料として、軽油・灯油をドラム缶で貯蔵し、金属製携行缶、灯油用ポリエチレン缶（以下「携行缶」という）に小分けするために必要な事項を予め計画するものである。

2 仮貯蔵・仮取扱いする場所

豊中市(能勢町)〇〇町〇丁目〇番〇号 〇〇小学校グラウンド（〇〇地域防災拠点）

3 仮貯蔵・仮取扱いに使用する部分の面積

約150㎡（15m×10m）

4 詳細レイアウト

別紙のとおり

5 仮貯蔵・仮取扱いをする危険物の類、品名、数量、倍数

第4類第2石油類（軽油・灯油）1日最大2,000L 2倍

6 貯蔵及び取扱い方法

- (1) 200Lの金属製容器（ドラム缶）により貯蔵する。
- (2) 保有空地进行を3m確保する。
- (3) 貯蔵場所と携行缶に小分けする場所に3mの離隔をとる。
- (4) 高温になることを避けるため通気性を確保した日除けを貯蔵場所に設置する。
- (5) 第5種消火設備 10型粉末消火器 2本設置する。
- (6) 標識・掲示板を設置し、関係者に次の事項について注意喚起を行う。
「危険物仮貯蔵・仮取扱所」、「品名・数量・倍数」、「火気厳禁」

7 安全対策

- (1) ドラム本体、手動ポンプ等のアースを確保する。
- (2) 危険物の取扱いは、原則として危険物取扱者免状保有者が行う。
- (3) その他安全対策書のとおり。

8 管理状況

- (1) 保有空地进行の周囲にバリケードを立て、空地进行を確保する。
- (2) 敷地の出入り管理を徹底し、いたずら・盗難を防止する。
- (3) 作業前と作業後に点検を行い、その結果を記録する。

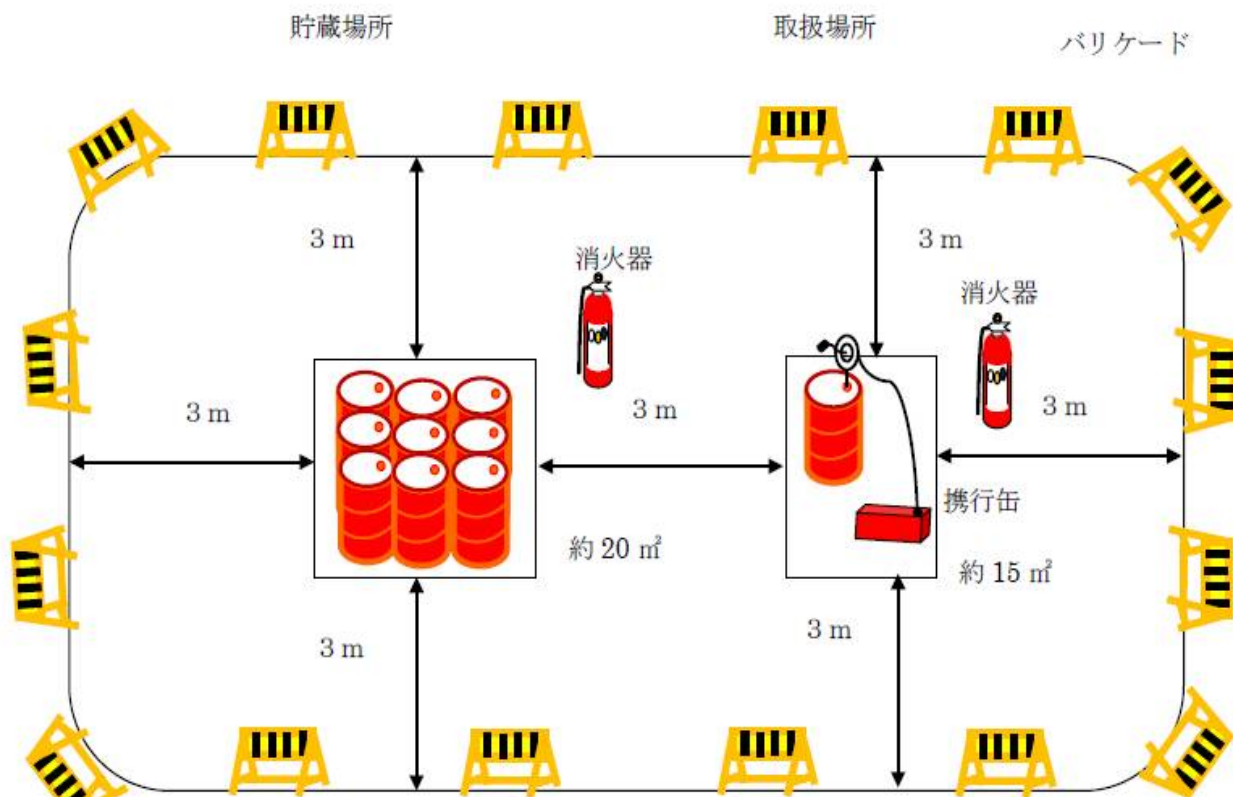
9 その他必要な事項

携行缶への小分けは、この場所以外では行わない。

提出者住所・氏名（電話番号）

仮貯蔵・仮取扱い実施計画書（地域防災拠点等のドラム缶による燃料の貯蔵、取扱い）

1 仮貯蔵・仮取扱い詳細レイアウト



- 注意事項
- ① 保有空地进行 3 メートル確保
 - ② 保有空地の周囲にバリケード等を立て空地进行を確保する。
 - ③ ドラム缶、給油ポンプにアースを取る。
 - ④ ABC 粉末消火器（10 型）を 2 本設置する。
 - ⑤ 危険物は、貯蔵場所に金属製容器（ドラム缶）にて貯蔵する。（最大 10 本）
 - ⑥ 取扱い場所に置くドラム缶は 1 本とする。
 - ⑦ 貯蔵場所のドラム缶が高温となることを避けるため、必要に応じ通気性を確保した日除けを設ける。
 - ⑧ 危険物の取扱いは通風・換気の良い場所で実施する。
 - ⑨ 標識・掲示板を設置し関係者に注意喚起を行う。

2 標識・掲示板（例）



危険物仮貯蔵・仮取扱所
 危険物の類・品名・数量（倍数）
 ・第 4 類 第 2 石油類 軽油・灯油
 2,000 リットル（2 倍）
 管理者 ○○ ▽◇○

- ・大きさ、縦 30 センチメートル以上、幅 60 センチメートル以上（縦書きでも可）
- ・「火気厳禁」は、字は赤色、文字は白色
- ・「危険物仮貯蔵・仮取扱所」は、字は白色、文字は黒色